

認知症になるとして② みまもりあいプロジェクト

よく防災無線で行方不明者の放送を聞きます。風が強い日はよく聞き取れないことも多いので鎌倉市の防災・安全情報メールをお使いのかたもいらっしやると思います。2016年の認知症で徘徊した行方不明届出数は全国で1万5000件。記憶力が落ちてくると一人歩きで道に迷い、徘徊につながっていきます。その対策の一つとして、最近各自治体で注目されている「みまもりあいプロジェクト」があります。6月15日号の広報かまくらで、鎌倉市とも協定を結んだとの記事が載りました。家族が検索依頼をだすと、あらかじめ登録してある協力者に通知が行き、協力可能と返信すると、こんな人、という情報が写真付きで送られてきます。それらしい人を発見するとフリーダイヤルからの転送で家族に連絡が取れるというものです。個人の電話番号は分からないようになっており、個人情報を守る仕組みもきちんと考えられています。

先日、このシステムを考案した高原さんに話を聞く機会がありました。

まず最初に出た話が「日本で年間お金の落とし物が交番にいくらぐらい届くと思いますか？」でした。「1億くらい？」と(そんなに多くはないかなと思いながら)答えると、「160億円」との答え。世界中の国で、そんなところはないそうです。日本人が元々持っている「困っている人を助けたい」とする互助の気持ちを、携帯電話のアプリを使うことで具体化して、こどもから高齢者まで「見守りあえる街」を育てる活動だそうです。



所長 宮下 明

協力する人の金銭的な負担はありません。検索を依頼する側は年間で3600円かかりますが、写真に示す布製のステッカーを傘や鍵、上着、鞆などに貼ったり縫い付けたりします(48枚あるのでたいていのものには貼れます)。持ち物を落としたり、忘れたりしたときにも手元に戻りやすくなります。GPSのチップを埋め込んだ靴、携帯電話などは、履いて出る、持って出るとは限りませんからね。



その他に役に立つことは、

1. ひとり暮らしの人が救急車で搬送されたとき(緊急連絡先につながれば病気や飲んでいる薬の情報が分かるでしょう)

2. 商店街で困ったことがおこったとき(「お金を払わず店を出た」場合には、お店の人がステッカーをみて家族に連絡を取ることで、警察に通報されないですむかも)

元気なうちは捜索隊のひとりとして動く。そして弱ってきたときは探し出してもらおう、というのはおたがいさまを実現するいい方法だと思います。